

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインとその中の漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

臨床検査のガイドライン JSLM2021 検査値アプローチ/症候/疾患

日本臨床検査医学会ガイドライン作成委員会（委員長：大西宏明 杏林大学医学部臨床検査医学教室）

宇宙堂八木書店、2022 年 2 月 1 日 発行

Minds 掲載 無

■1 甘草、甘草含有薬（小柴胡湯）

疾患：

浮腫（副作用）

副作用に関する記載ないしその要約：

8) 薬剤性浮腫の項目に、『甘草含有薬（小柴胡湯、強力ミノファーゲン C）やステロイド、エストロゲン作用薬はアルドステロン様作用があり、Na を貯留させる。』との記載がある。

図 2 浮腫の確定診断の進め方 のなかで薬物服用歴（薬物性浮腫）に甘草の記載あり。

■2 漢方薬

疾患：

高血圧性疾患（副作用）

副作用に関する記載ないしその要約：

表 1 病歴の要点の表中に、二次性高血圧を示唆する情報として、『薬剤：非ステロイド性消炎鎮痛薬、漢方薬、経口避妊薬など』の記載がある。

■3 漢方薬

疾患:

急性肝炎 (副作用)

引用など:

Takikawa H. Recent status of drug-induced liver injury. *Hepatology Research* 2009; 39: 1-6.

副作用に関する記載ないしその要約:

急性肝炎の薬物性肝障害の確定診断に必要とされる検査項目の項に、下記の記載がある。

『薬剤性肝障害の原因として抗生剤 14.3%、健康食品 10%、解熱・鎮痛・抗炎症薬 9.9%、漢方薬 7.1%とされており、これら原因薬剤の頻度の高い薬剤が投与されていないか聴取する必要がある。』